

令和元年 11 月 15 日

(2019年)

保護者の皆さまへ

吹田市立青山台中学校

校長 開 康 壽

令和元年度 全国学力・学習状況調査の分析について

秋冷の候、保護者の皆様におかれましてはますますご清祥のこととお喜び申し上げます。

また、平素は本校の教育活動にご理解・ご協力を賜り厚く御礼申し上げます。

さて、本年度3年生を対象として「平成31年度全国学力・学習状況調査」を実施し、9月上旬に個人ごとの結果をお返ししました。また吹田市でも、今回実施した調査結果の概要を吹田市のホームページを通じて公表しております。

この調査は中学校の最終学年のみを対象とした調査であり、教科も国語と数学と英語に限られ、測定されたものは学力の一部であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。そのことを踏まえつつ、調査によって得られた課題を明らかにし、その改善に取り組むことが、調査本来のねらいであると考えています。

対象となった3年生には、一層きめ細やかな指導ができるよう取り組みを進めるとともに、学校全体として課題に応じた学力向上につながる具体的な指導法の工夫改善も図ってまいります。各ご家庭におかれましても、以下の分析結果をもとに、今後の家庭学習の指針として、参考にさせていただきますようお願いいたします。

1 教科に関する調査結果の分析

●国語《概要》

◎生徒の平均正答率は全ての観点において全国・府平均を上回っていることから、出題された学習内容を概ね理解していると考えられる結果ではあった。しかし、学習した内容の「知識」を活用する問題の正答率が低いことや、「書くこと」の記述式の設問においては、無解答率がやや高いことが課題として挙げられる。

●国語《各領域における成果と課題、指導改善のポイント》

「国語」への関心意欲態度については、全ての設問において正答率が全国・府平均を上回る結果であった。

「話すこと・聞くこと」においても全ての設問において正答率が全国・府平均を上回った。しかし、「話し合いの話題や方向を捉えて自分の考えを持つ」という問題では正答率がやや低く、無解答率も目立った。

「書くこと」においては「伝えたい事柄について、根拠を明確にして書く」という記述式の設問に対する無解答率がやや高く、正答率も低い結果であった。全体的な平均正答率は全国・府平均を上回っていたが、書く活動を多く取り入れることで自信を持たせる取り組みを意識していきたい。

「読むこと」について正答率が全国・府平均を上回っている結果から、基本的な読解力についてはついてきていると判断できるので、『長文』に対する読解力も伸ばせるような取り組みをしていきたい。

「伝統的な言語の文化と国語の特質に関する事項」において全国・府平均を上回る正答率ではあったが、今回の『封筒の書き方を理解して書く』という知識を活用する様な設問では正答率がやや低い結果となった。今後の課題として、定着してきている言語事項や学んだ知識を深めどう活用させるか、といったことが考えられる。

●数学《概要》

全ての観点において全国・府平均を上回っている。しかしながら、全国平均と同じように本校でも関数に関する部分がやや弱い。また、資料整理に関する設問についても正答率が低い結果であったので、重点的に取り組む必要があると考えられる。

●数学《各領域における成果と課題、指導改善のポイント》

「数と式」の項目においては正答率が全国・府平均を大きく上回っており、十分な理解ができていると判断できる。

「図形」と「関数」の項目に関しても正答率は全国・府平均を大きく上回っているが、無解答率が少し高い結果となった。

「資料の活用」の項目に関しての正答率は全国・府平均を上回っているが一部の設問で無解答率が全国・府平均を僅かではあるが上回っている結果となった。

課題として考えられるのは、記述式の正答率が低く無解答率が高い傾向にある点である。全国・府平均でも同じ傾向にあるが本校も同じような結果となっている。記述式の設問は学んだ知識を活用できるかをみる問題でもあるので、今後の授業で文章題や今回の様な資料を活用するといった問題に取り組み、思考・判断・記述の機会を増やすなどの工夫が必要である。

成果としては2年生・3年生で習熟度別少人数授業の実施により、可能な限り理解度に合わせた授業を展開する中で、積極的に授業に臨む生徒が多くなってきた点と、問題集等の課題を適宜課すことで家庭学習の定着が浸透してきた点である。

●英語《概要》

◎「聞くこと・読むこと・書くこと」の平均正答率は全国・府平均を大きく上回っていることから、出題された学習内容をよく理解していると考えられる結果であった。

「話すこと」に関しても平均正答率は全国平均を上回っていることから、上記と同じく学習内容の理解度は高いと考えられる。

全体を通して、学習内容の理解は深い、「話すこと」の平均正答率が全国平均を上回った。しかしながら、結果としての数値が低いことから「意見を英語で述べる」という部分で課題が残ると考えられる。

●英語《各領域における成果と課題、指導改善のポイント》

「聞くこと」に関して「聞いて把握した内容について、適切に応じることが出来る」を問う問題では無解答率が4割を超える高い結果であった。

「読むこと」に関しては食糧問題についての資料を読んで、その問題に対する自分の答えを書く設問の正答率が2割弱であった。

「書くこと」に関しては全体的に全国・府平均を上回る結果であったが、「2つの案を比較してどちらが良いか理由とともに意見を書く」設問では無回答率は低かったものの、正答率が全国・府平均を下回る結果となり、解答はしたが正答には至っていない部分が気になりな点である。

「話すこと」に関しては全ての設問で意欲的に解答し無解答率が低かったが、正答率は低い結果であった。今後、この意欲を大切に「正確な英語を扱う力」につなげていく必要がある。

学習内容の理解はできてきているが「自分の意見を述べる」というステップが課題と考えられる。全体的な無解答率の低さと平均正答率の高さから意欲も高く、一定の知識も身につけているが「正しい英語」で自分の意見を伝える力を育成する授業が求められる。あるトピックスでの賛成・反対の意見やその理由を記述させる活動や「AETとの英語による面接試験」のような活動を授業で展開していきたい。

2 生活習慣や学習、学校生活及び自分自身のこと等に関する質問紙調査の傾向

【生活習慣や学習について】

- ・朝食の摂取、起床と就寝時間は定まっているとの設問で「している」「どちらかといえば、している」の割合が高く、各ご家庭での協力のおかげで規則正しい生活は定着している。
- ・学習時間の確保については1時間以上で2時間未満、2時間以上で3時間未満の割合が全体の80.5%と最も高い結果で、全国・府平均より上回っている。
- ・学校での出来事を家庭で話す割合も約80%という結果で、各ご家庭における保護者の皆さまの、日頃のコミュニケーション環境づくりのおかげと感謝申し上げます。

【学校生活や自分自身について】

- ・「自分には良いところがありますか」の質問に「当てはまる・どちらかといえば当てはまる」の割合が全国・府平均を上回る結果であった。また、「自分のよいところを認めてくれていますか」の割合も肯定的な回答が80%を超える結果となった。教員側が見ているポイントと生徒の認めてほしい部分が合ってきていると考えられる。今後も落ち着いた環境を整備し教師と生徒の良好な関係を築いていきたい。
- ・「将来の夢や目標を持っていますか」の割合は昨年度に引き続いて全国平均を下回っていた。「ふれあい体験」等の取り組みで「キャリア教育」を実践してきてはいるが、活動内容の検討が必要と思われる。
- ・クラブ活動に参加しているの割合が約80%で全国・府平均を上回っている。参加している主な理由として、全国平均の上位が「体力・技術を向上させたいから」に対して、本校の上位は「楽しいから」であった。

3 今後の取り組み

本校の学校教育目標「豊かな人間性を育む」「主体的に学習する態度と自主性を養う」「たくましく生きるための力を育む」を達成すべく、今回の調査結果をしっかりと分析し、今後の教育活動に活かしていきます。

各授業の形式として、座学主体だった状態から自分の考えを発表したり、クラスや班の中で意見交換をしたりするなど、授業の形態・展開方法が変わりつつあります。各教科の知識等の学習だけでなく、自己の考えをしっかりと持たせること、他者の意見を素直に聞き入れること、発表できることを身につけさせていきたいと考えています。

また、ICT教材に興味を持っている生徒の割合が年々高まってきています。ハード面での教室環境を整備し、ソフト面であるパソコンやパワーポイント等のツール・ソフトに触れる機会を増やす授業を、技術の時間のみならず多くの教科で展開していく所存です。

最後に、保護者の皆様には引き続き本校の教育活動にご理解ご協力をいただきますよう、よろしくお願い申し上げます。